

若者の政治離れに一石

選挙ドキドキプロジェクト

若者の政治離れがますます顕著になっていきます。総務省調査によると、全国統一地方選挙の投票率は平成3年の68・07%から減少が目立ち、平成19年には53・67%、京都市長選挙でも平成12年に45・90%、同16年には38・58%、同20年には37・82%と減少しています（京都市選挙管理委員会事務局HPより）。

政治離れは若者世代に限らず、国民全体にいえることですが、年代別にみると、平成22年の第22回参議院通選では20〜24歳が33・68%、25〜29歳が38・49%と全体の平均59・93%を大きく下回り、若者年代の投票率の低さが際立つ結果となりました（総務省選挙部HPより）。

投票に行かない理由は、「関心がない」、「用事がある」、「適当な候補者も政党もなかった」などさまざまですが、若者自身が社会の一員として、自らの一票で意思表示することは重要なことです。そこで、(財)京都市ユースサーブス協会は、若者の選挙や政治への関心を高めるための取り組みとして「選挙ドキドキプロジェクト」づくりを取り組んだ結果、大学生3人と社会人2人の計5人が集まり、昨年10月から活動をスタートしました。

プロジェクトの概要

- 「選挙ドキドキプロジェクト」では、
- ① 若者の政治に対する意識を向上させること
 - ② 政治に参加できることに若者自身が気づくこと
 - ③ 自ら政治に関心を持ち、若者がいること
- の3点を、大人や行政にも意識させることを目的に、「政治にあまり関心のない若者」そして「大学生年代を中心に高校生から20歳代」をターゲットに働きかけました。具体的な取り組みとしては、京都に暮らす若者から「自分が市長になったら〇〇したい」という意見を集め、寄



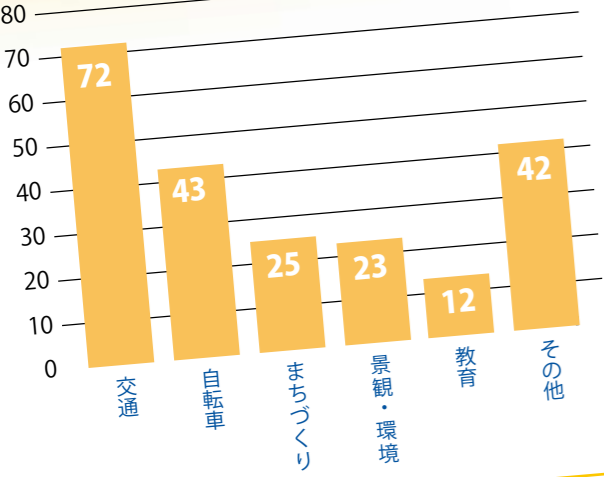
プロジェクトを代表して



選挙ドキドキプロジェクト代表
谷川詩織さん（立命館大学3年生）

意見募集の中身は、自転車やバス交通など学生が身近に感じている事柄が多かったけれど、本当にたくさんの方の立場の人に影を落とすから、自分だけの視点で考えたらダメなんじゃなくて、実現可能かどうかを考えたことが大事だと。選挙前のとても忙しい時期、候補者や事務所の方に時間をとってもらったのは無理なんじゃないかと思いましたが、協力して頂いた皆さんに感謝しています。若者が市政に参加する機会やきっかけさえあれば、いろいろ考えたり、行動したりすると思っんです。「最近の若者は…」とか「どうせ若者は…」とかいわないで、もっと若者にそういう機会があることを伝えてほしいと思います。

身近なテーマで
若者の逆マニフェスト



せられた217件を101項目に集約し、「若者からの逆マニフェスト」として、今年2月の市長選挙立候補者に提示し、各項目について〇×形式（〇＝実行する、×（それ以外）で回答をいただきました。

メンバーの感想

- 政治ってバランスが必要で、複雑なものなんだと改めて感じた。
- 政治に興味がなかったが、身近な生活に結びついていくことを実感した。次は投票しようと思う。
- 候補者からの回答を得るのにいくつものハードルがあったが、そのたびに多くの人に協力してもらい、回答を公開できて充実している。
- 若者の意見には自分目線(自己中心的)のものが多かった。〇×の結果だけでなく、その理由(なぜできないか)も伝えたいと思う。

今後の展望

メンバーの感想にもある通り、逆マニフェストへの回答を公開して終わりではなく、「なぜそれが実行できないのか」、「違う視点から見たらどうか」といった部分を、若者自身が考え、検証できるような機会が持てれば、と考えています。

また、若者が政治に関心を持つためには、大人が「こつしたら身近に感じるだろう」と用意するのではなく、若者自身が「こつすれば身近に感じる」というアイデアを実行していけるよう、今後も取組を進めたいと考えています。

	A 候補	B 候補
市内の街灯を蛍光灯からLEDに変更する。(右京区、20歳、男子学生)	○	○
ダンスの授業を小学校にも拡大する。(左京区、21歳、男子学生)	○	×
市バスを民営化する。(北区、21歳、男子学生)	×	×
市バス停車駅に並ぶための列の表示をつける。(上京区、20歳、女子学生)	×	○
京都市内にある公共施設にWi-Fiのアクセスポイントを設置する。(中京区、27歳、男性会社員)	○	○
外部から公務員を査定できる仕組みをつくる。(右京区、21歳、男子学生)	○	×

詳細は協会HP内で公開しています。<http://ys-kyoto.org/wp-content/uploads/2012/03/kaitou.pdf>

逆マニフェストの一部と回答例